

中小企業地域資源
活用促進法に基づく



わが市町村の
ふるさと名物は
これ!

ふるさと名物
Furusato Meibutsu



岐阜県土岐市
が応援するふるさと名物

- ◎美濃焼の商品群
- ◎美濃焼に関わる産業観光





ふるさと名物
Furusato Meibutsu

応援宣言

平成27年9月14日

岐阜県土岐市

美濃焼 伝統と産業が育んだ土岐のとおきのおきの陶器

地域の
プロフィール

市域の3分の2が山林を占め豊かな自然に囲まれた本市は、陶磁器に適した良質な陶土（粘土）と、焼成の燃料（薪）となるカラマツが豊富であったことから、1,300年以上の歴史を持つやきものの産地として発展してきました。

7世紀の須恵器の生産に始まり、16世紀の安土桃山時代、江戸時代には織部、志野、黄瀬戸、瀬戸黒などの茶陶・高級食器が生み出され、これらの作品は世界的にも高い評価を受けています。17世紀以降は日用食器の生産が主体となり、明治時代以降は量産化が進み、本市の基幹産業である陶磁器産業の基盤が形成されました。

市内には、国の史跡に指定されている「元屋敷陶器窯跡」をはじめ、7世紀から17世紀に造られた300を超える窯跡が現存し、また明治から昭和初期に作られた陶窯用のレンガ造りの煙突も各地に見られます。このように、美濃焼は文化的価値と産業的価値の2面性を持ち合わせて発展し、現在も、260社を超える窯元（メーカー）が家庭用から業務用、高級品から量産品まで、消費者のニーズにすべて対応しながら美濃焼を製造しています。

現在の生産量としては、食卓用・厨房用食器の国内生産量の約4割を占め、タイル等その他の陶磁器も含めると約6割と言われています。つまり全国の各家庭の食卓には必ず美濃焼があると言っても過言ではないほど流通しています。



ふるさと名物の内容

1

主な地域資源

◆美濃焼に関わる人材と技術の伝承

美濃焼の量産化が進んだ明治時代以降、生産過程の分業化が進み、陶土採取から販売まで細かく分業されました。そのため現在でも美濃焼に関する職務に従事する市民は約5,200人であり、市内就業者の約17%を占めています。事業所数も窯元（メーカー）が約260件、商社が約120件、その他美濃焼に関する事業を行う事業所は合計で約700件となり、他のやきもの産地と比較しても群を抜いています。やきものの製造においては、専門的技術を要する過程が多く、その技術を持つ多くの人材は貴重な資源であり、官民協同による技術の伝承にも力を入れています。

2

ふるさと名物

◆美濃焼の商品群

文化と産業の両方で発展した美濃焼は、手作りによる一品もの、オートメーション化された大量生産等、あらゆるニーズに応え、様々な商品を作りあげてきました。

家庭や飲食店で使用される食器の他、高強度磁器で作られた食器は学校や施設の給食用食器として、タイルは建築用素材として、電線の絶縁体としても使用されています。



3

その他

◆美濃焼に関する産業観光

本市では年間を通じて、地域や民間の団体が主催するイベントやお祭りが実施されています。「TOKI陶器祭り」、「下石どえらあええ陶器まつり」、「美濃焼伝統工芸品まつり」等があり、特に美濃焼の商業団地が開催する「土岐美濃焼まつり」は来場者数が約25万人と全国でも有数のやきものイベントとなっています。

また近年、多くの窯元や商社が自社にギャラリーを設置し、一般客の受け入れ態勢を整えています。またとっくりの産地として知られる下石町の一部地域では、とっくりをモチーフにしたキャラクターの「とっくりとっくん」を町中に飾り、訪れる方を和ませています。美濃焼の産地としてだけでなく、美濃焼を活用した産業観光にも力を入れています。

美濃焼をモチーフにした関連商品の開発も進んでいます。「ミニとっくりとっくん」や美濃焼を模ったお菓子の他、窯元が三日三晩、窯を焚く際、栄養価が高く手軽に食べられていたとされ、今日でも家庭料理として食べられている「味ごはん」のレトルト商品なども開発され、美濃焼のPRの一助となっています。



市の取り組み

1

独自の支援策

◆包括的な支援

本市では、美濃焼に対し包括的な支援を展開しています。

「産業振興課」では、販路開拓を目的とした補助金の交付、美濃焼に関する祭りやイベントに対する支援を行っています。

「美濃焼振興室」では、美濃焼の販売促進事業、PR事業、ブランディング事業を実施し、美濃焼PR委員会、美濃焼産業活性化委員会の事務局を務め、関係者と共に美濃焼の発展に寄与しています。

また美濃焼には歴史があり、歴史的価値の高い美濃焼や関係史跡も多く現存することから、「文化振興課」では美濃焼の歴史の研究・伝承、史跡の保存等を行っています。

このように技術、マーケティング、歴史とあらゆる分野において市が直接的に支援する一方、それぞれの分野において補助金交付等の間接的支援も行っています。

2

施設

◆陶磁器試験場

全国的にも珍しい市の研究施設である「陶磁器試験場」では、原料や釉薬の試験、デザインの作製、3Dプリンターを使用したサンプルの作製等を行い、窯元の支援を行っています。また、試験場では陶磁器業界に従事している方を対象に各種講習会を開催しています。上絵付け、石膏型の成形など技術の向上を目指すものや、商品開発、デザイン講習会など、自社ブランドの確立手法を学び経営体質の強化を目指すものなど、業界が求めるテーマを意識した講習会を企画しています。



市の取り組み

3

協議会 事務局

◆美濃焼PR委員会

「美濃焼振興室」が事務局を務める「美濃焼PR委員会」は、メーカーや商社の他、商工会議所等も委員となっており、展示会・見本市などでの統一的PR、パンフレット・リーフレット等の作成を行い、美濃焼の知名度の向上に努めています。委員会で市と美濃焼業界が随時情報交換することにより、業界の現状に合ったより効果の高いPR活動を行うことができます。土岐市のやきもの生産量は日本一を誇りながら、全国的な知名度は低いため、官民協同で知名度、ブランド力を高めるPR事業を行っています。

● 道の駅 どんぶり会館



● 道の駅 志野・織部

● 美濃焼伝統産業会館

